

インターバンクの声（2017年5月26日）

昨日の東京市場では、5月上旬に開かれたFOMC議事要旨の「大半のメンバーが利上げは適切になると想定しつつも、最近の経済指標の弱含みが一時的であると確認するだけの証拠が得られるまで、利上げは待つべきだとの考えで一致した」との部分に注目が集中したせいか、委員会メンバーの考えがハト派寄りになったとの見方が広がった。

ドル円は、東京市場では朝方の水準からさらに円買いが進むことなく、夕方まで値幅の小さい相場展開が続いた。ロンドン勢の参入後は、市場の米連邦準備制度理事会(FRB)の6月の利上げ織り込み率が依然高いことや、来週月曜日がメモリアルデー(戦没者追悼の日)で米国市場が休場になることもあってポジション調整が先行し、111円台後半までドル買いが進んだ。

その後、主要通貨が大きく変化することはなかったが、石油輸出国機構(OPEC)とロシアなどOPEC非加盟産油国が減産延長を決定したものの、減産幅の拡大や減産の長期化までの合意がなかったことで原油価格が急落、これが資源国通貨下落につながった。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。